

46歳、4児の子育てをしている父親です。子ども達には常日頃、様々な事象に苦手意識を持つことになっても固定観念とせず、人生の中で時には挑戦し、自分の変化を楽しむように生きてほしいと感じています。

私の読書の目覚めは遅く、本格的に読書をするようになったのは30代になってから。子どもの頃は国語が大の苦手で、成績で3から上の評価をもらったことがない。子ども達に話しても、なかなか信用してもらえませ

読書に目覚める転機となったのは、市の第4次総合計画で審議会の委員に任命されたこと。時の栗原裕康市長の気まぐれでしようか。沼津市の未来を話し合う場に参加させていただき、その当時の身の丈で考えた沼津市の未来を語らせていただきました。ただ、委員を務めた後

育、基礎教養の習得でした。知識を広く取り入れ、応用できる知恵を育むことを目的とするリベラルアーツ。それまで国語への苦手意識から、自分から本を手にとって読むことはあまりありませんでしたが、意を決し、隙間に少しずつ始めることにしました。

国語コンプレックス

飯田理一朗

「話が通じない」これからは若さという勢いだけでは、知識や経験が豊富な方々とは語り合えない。そう感じた私が悩んだ先に見つけた光が、当時、大学教

育で見直され始めたリベラルアーツ教

に私に残ったものは自身への絶望でした。

まずは世界の常識を知ろうと、私が最初に手に取り学びを始めたのは、人類の歴史上、一番多くの人間が読んだであろう「聖書」でした。世界の真実は、ここにあり――そう感じてしまうほど、偉人達の高い壁を感じつつも、「いつでもおいで」と言われているような優しさを、この一角で感じ

が、そこで私が大事にしていた場所は、マルサン書店仲見世店の岩波文庫の一角でした。

失ったものを数えるのではなく、今あるものを数えたいと考えています。市内の書店を巡った後に知った表情に、人生を歩む道しるべの一つを残せなかった責任を痛感しました。本のある意味、本である意味、人間の思いを、紙を通じて文字として残す。その意味は必ずあると私は信じています。

いつの間にか、本への苦手意識はなくなっていました。様々な本に触れていく中で、文字を残すことに命を懸けていたであろう、文章の中から感じ取れる熱量や、多くの方が読み残そうとしてきた歴史から、いわゆる古典と呼ばれる本を手にとることが多くなっているのです。

出版社に勤める友人から、出版社や書店の事情を教えてください、このような場所が全国で消えていっているという話を聞き、私を育ててくれている場所だっただけに、非常に残念な気持ちになりました。

子ども達には、「私の思いは市立図書館2階の郷土コーナーにあるから、私が死んでも人生に迷った際は足を運んで文章の中から何かを感じてほしい」と伝えていきます。

生まれ故郷の知の集積と呼ばれる図書館に文章を残せる機会を得られるという意味でも新聞に投稿できることを、とてもありがたく感じています。

人間は、いつでも変わる。そのことは世界の偉人達も人生をもつて証明されていますが、子ども達には勇氣を持って、固定観念にとらわれず、様々なものに挑戦して、豊かな感覚と知恵を育んでほしいと考えています。

(原町中)

材を使った料理の提供に期待している。来年の市政100周年記念イベントでも皆さんの協力が必要だ」とした。

農産物コンテストの入賞者
優等から2等まで
農林まつりで表彰

第53回沼津農林まつりが18日、御用邸記念公園で開かれ、来場者でにぎわう中、前日に実施した農産物コンテストの審査で31.2点の中から選ばれた優等賞12点、1等20点、2等50点のうち上位入賞者を表彰した。

優等賞の受賞者(地区・作物)は次の通り。(敬称略)

▽市長賞＝遠藤光

